

ANNUAL CONCERT

XXVII

XXIII

JANUARY CONCERT

—Gaigo will shine—

Gaigo Will shine tonight

Gaigo will shine !

Gaigo will shine tonight

all down the line !

Gaigo will shine toniht

Don't they look fine !

When the sun goes down

and the moon comes up

Gaigo will shine !

—Varsity—

Varsity ! Varsity !

Osaka Gaikokugo Daigaku !

Praise to thee we sing,

Praise to thee our alma mater

U. Rah Rah !

Osaka Gaidai !

大阪外国語大学グリークラブ
第27回 定期演奏会
1983年12月22日 森之宮青少年会館文化ホール



—御 挨 拶—

本日はお忙しい中、大阪外国語大学グリーフクラブ第27回定期演奏会に御来場下さいまして誠にありがとうございます。

外大グリーの定演と言えば、冷たい北風の中を青少年会館へ、という評判でした。ところが今年は部員が減ったため、広いステージの上にまですきま風が吹きぬけることとなってしまいました。

「声の隙間からローマが見える。」

などと叩かれたこともありました。その他音取りがなかなか進まなかつたり、選曲に手間取つたり。苦労の種を蒔きました、と言わんばかりの一年間でした。しかしそれでも大阪四大学はありました。ジョイントもありました。そして今日、もう間もなく定期演奏会の幕が上がるとしています。

そんな苦労してまでなぜ歌を歌うのか、と尋ねられたら何と答えましょうか。苦労しているから歌うのだ、という答えはどうでしょうか。大昔、歌は救いを求める祈りでした。夜明けの太陽に向かって人々は祈つたことでしょう。確かに私達の苦労などは比較にならぬほど軽いものでしよう。けれどそのおかげでほんの少しでも『歌うことの核心』に触れることができました。このことは今後の私達のクラブ活動、のみならず日々の生活にもきっと大きなプラスとなることでしょう。その意味においては今年は実り多い一年であったと言えるのではないでしょうか。

最後に、本日の演奏会のため御尽力下さいました先生方、先輩諸氏、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

部長 牧本成俊

MESSAGES

アクティ ガイダイ グリー！

あの狭くて汚なかつた上八の外大——しかしチョッピリなつかしい上八の外大——の門をくぐつた部員はもう今年はいなくなつてゐる（はずである）。まさにターム フライズというべきであろうが、ノスタルジアは先輩にまかせて、現役の部員はそれをふつ切つた新生ないし活生の道を歩んでほしい。新約聖書マタイ福音書九の17に「新しい酒は新しい革袋に入れなければならない」とあるが、本年のグリークラブはその意味で新しい門出を事実上果したわけである。

もちろん、過去と絶縁するというのではない。およそ存在するものはすべて歴史的存在であるから、栄誉ある伝統は、その炬火は、ひきつがねばならぬ、しかし、過去の栄光は未来の星に変身してこそ継続性があるといえるのである。

大阪外大のグリーの歴史は他のクラブに比べると古い方に属するだけに、今年を節目として明るい衣替えをしてみることだ。聞くところによると、本年は阪大・府大・市大との合同演奏会に加えて奈良女子大とのジョイント・コンサートも行つたようである。これは混声合唱曲にも挑戦することを意味するし、それだけ成長をとげるということに連なる。

大阪は府も市も民間も力を合わせて21世紀へ向けての諸計画を練つてゐる、本学グリーも21世紀へ向けてはばたいてほしい。定期演奏会の成功を祈るや切である。

大阪外国語大学長

林 栄一

まずは第27回定期演奏会の開催おめでとう。

今年の定演の特徴は、出演者が基本的には箕面市粟生間谷のキャンパスに入学した者によるということであろう。「上本町八丁目」はいよいよ遠い存在になつた。文化サークルの発表会はおかげで北摂所在のホールを借用するのが多くなつた。しかし、グリークラブは相も変わらず青少年会館文化ホールを使用し続ける。私はこれを肯定的に受けとめる。グリークラブのもつ輝かしい伝統の継承というものがそこに見られるからである。

だが問題は形式だけにあるのでない。重要なのは内容である。今宵も、精一杯、日頃の練習の成果を發揮し、美しいハーモニーを大阪城のそびえる難波の空に響き渡らせて欲しいものである。

日頃ご指導をいただき林先生にこの機会をかりて深く感謝するとともに、木枯し吹きすさぶ師走の候に、ご多用のなかご来場いただいたみなさま方に厚くお礼申しあげる。

グリークラブ顧問

山 口 慶 四 郎

林 誠先生に聞く <メッセージにかえて>

— 外大グリーの魅力は

大ざっぱに言うと素朴なっていうか、素直さかな、外大グリーの伝統ですね。時代の流れと共に人間的スケールは変わってきてるけどね。音楽を創る上での素直さっていうのはあって、すごくおもしろいね。主体性がないんではなくて、私がこうしたいなと思う方向へ皆も行ってくれるね。

相手がどうしたいかを聴いて、そこから始める。グリーの練習でも、まず聴く。その上で皆がねらってるこの効果を上げるように創っていくわけです。

プレイすることよりも、まず聴きとつて感動するところから始まるというのが私の音楽上の立場ですね。

林 誠

— 音楽をやっていくことがどう影響すると思いますか。

クラブとは？ ということかな。大学っていうのはクラブなしではありえないと思いますね。クラブって人と人とのつきあいでしょ。音楽を一緒にしてるんだから。こうしたい、ああしたいっていうことを言って自分をさらけ出せるね。そういうつきあいを皆もしてるとと思う。これは大学の、大人のクラブ活動でしかできないですね。社会だって人どうしで作ってるものだから、クラブっていうのは社会へ出していく一つのステップとしてすごく大切だと思いますね。

— 音楽をやっていく上での信条は

ごく日本人的なんだけど、音楽はまず「礼」だと思つてます。音を出す前に聴くこと。相手がどうしてきたかという方が自分がどう創りたいということより大切ですね。一度相手の音楽に同化する、相手がどうしたいのかを感じて、それに自分が対処していく楽しさっていうのが音楽だと思いますね。オーケストラと弦楽合奏だと、やっぱり室内楽の方が完全に好きですね。指揮者のいない音楽っていうのが好きなんですね。指揮者が押しつけるのではなくて、お互いにどうしたいのかを聴き合いながら自発的に創り、そこから醸し出されたものが音楽だと思いますね。そういう意味でこの前のジョイントの合同演奏はすごくおもしろいっていうか、いい演奏だった。私がコーラスをどんどんあつて音楽を創ったのではない演奏ができたからね。そういうのが、私が音楽だなあと思うものなんです。

PROGRAM —————

Gaigo Will shine

Varsity

学歌

1. メンデルスゾーン男声合唱曲集

1. Türkisches Schenkenlied
2. Der Jäger Abschied
3. Sommerlied
4. Wasser fahrt
5. Liebe und Wein
6. Wanderlied

指揮

中津孝司

PROGRAM

4. 黒人靈歌集

Deep River
Crucifixion
If I got my ticket, can I ride?
Were you there?
This ol' hammer!
Jscob's Ladder
Ain'-a that a good news

2. 男声合唱組曲

指揮
中津孝司

「わがふるき日のうた」

- I. 鰐のうへ
- II. 湖水
- III. Enfance finie
(過ぎ去りし幼年時代)
- IV. 木兎
- V. 郷愁
- VI. 鐘鳴りぬ
- VII. 雪はふる

作詩

三好達治

作曲

多田武彦

指揮

小林卓郎

3. 男声合唱とピアノのための ゆうやけの歌 (OB合同)

作詩

川崎洋

作曲

湯山昭

指揮

中津孝司

伴奏

吉田裕文

曲目解説

—メンデルスゾーン 男声合唱曲集—

フェリックス=メンデルスゾーンは、1809年2月3日、ハンブルグに生まれたが、周知のとおり父は富裕な銀行家でありその家庭的環境は経済的にも教養的にも豊かでありきわめて恵まれたものであった。他のドイツマン派の代表的作曲家たち——いまわしい病気に苦しめられながら、「冬の花」という絶品を書いたシューベルト、錯乱してライン河に投身自殺を試みたシューマン、晩年には生きる力を失って小曲の作曲の中にと衰えていったブラームス——とは対照的である。1818年にはピアニストとしてデビュー、1825年から音楽家としての本格的活動にはいった。1837年に結婚したが多忙のため健康を害し遂に1847年ライプチヒにおいてこの世を去った。

彼の曲は、和音進行にも無理がないし、形式の上でも整っていて美しい。すべてがのびのびとして円満だが、比較的訴えかけの個性の力が乏しい、というか、すべてをそれに賭けた破格の情熱が見られない。ロマン派の作曲家の中でも、彼ほど清純なリリズムを身につけてそれを心からの愛情とともに美しく豊潤に歌いあげた人は他にはいない。今宵演奏する曲は男声合唱のための作品50の6曲で合唱音楽の基本をもう一度見直すために取り上げた。

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. トルコ人酒場の歌 | 2. 狩人の別れ |
| 3. 夏の歌 | 4. 船出(遙かなる地平の方に) |
| 5. 恋と酒 | 6. 流浪の歌 |

—わがふるき日のうた—

よい曲というのは（もちろん合唱曲について）メロディーも、もちろん大切だが、そのメロディーにのせる詩が重要な役割を果たしている。この組曲が、現在多くの大学の男声合唱によって演奏されているのもそのためだろう。詩（小説などもそうだが）をその時代はこういう時代だったから、この詩はこう読まなくてはいけない、というように学問として読む方法もある。しかし、作品を本当に楽しみたいなら、読んでいる本人が、自分の生活している時代や自分自身に照らし合わせてみることが、大切だと思う。すばらしい作品というのは、いつの時代でも読む人に感銘を与えてくれるものだ。この曲に取り上げられている三善達治の詩も今、生活している私たちに多くのことを語りかけてくれる。

Enfance fine (過ぎ去りし幼年時代)	木兎 (みみずく) 木兎が鳴いてゐる ああまた木兎が鳴いてゐる 古い歌 聴きなれた昔の歌 お前の歌を聴くために 私は都にかへってきたのか…… さうだ 私はいま私の心にさう答える 十年の月日がたつた その間に 私は何をしてきたか 私のてきたことといへば さて何だらう…… 一つ私は希望をうしなつた ただそれだけ
今日記憶の旗が落ちて、大きな 川のやうに、私は人と訣れよう。 床に私の足跡が、足跡に微かな塵 が…… ああ哀れな私よ。	木兎が鳴いてゐる ああまた木兎が鳴いてゐる 昔の声で 昔の歌を歌つてゐる それでは私も お前の真似をする としよう すこしばかり歳をとつた この木兎もさ

中津孝司

1961年大阪に生まれる。
口シア語科4回生。山本寿太郎氏にピアノを師事する。

小林卓郎

21才。誠実な指揮でブリーメンの人望を集める。そのウイットとエスプリにあふれた言葉には定評がある。素直・誠実・勤勉・木兎、三拍子そろった次期指揮者であり、持つてありがたい友人。

吉田裕文

1964年姫路に生まれる。
大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻一回生。植田定和氏に師事する。

曲目解説

—ゆうやけの歌—

去年の第26回定期演奏会において、私は高田三郎作曲男声合唱曲「水のいのち」を指揮した。邦人作曲家による男声合唱曲においては「水のいのち」に続いて、今回湯山昭作曲「男声合唱とピアノのためのゆうやけの歌」を取り上げた。

実は、私は最初、湯山氏の新作である「流氷のうた（男声合唱とピアノのためのディアローグ）」を選曲しようと、楽譜を研究・検討した結果、内容が乏しく湯山氏にしては愚作であるように思われたので、ステージで演奏するのを中止したのである。日本の男声合唱曲中、屈指の名作という地位を確保した「男声合唱とピアノのためのゆうやけの歌」を研究する方が、指揮者にとっても合唱団にとっても、ひいてはピアニストにとってもはるかに音楽的体得度が高く、かつ有益であるという理由から演奏に踏み切った次第である。

湯山昭の作曲は、川崎洋の詩の音楽性を巧みに生かし、さらには詩と音楽との相乗作用によって、絵画を鑑賞する視覚的感動を与えていた。「男声合唱とピアノのための」とあるように、この曲においてピアノは単なる伴奏ではなく、ピアノ譜の中にも湯山昭らしいリズムと着想——有名なショパンのワルツOp. 69 No. 2遺作が見え隠れしている——をうかがうことができる。このピアノを私の友人である吉田裕文君が心よく引き受けてくれた。誠実な仕事ぶりで、精一杯の音楽性を發揮して協力してくれた。感謝している。また諸先輩とともに音楽づくりができたことを現役の指揮者として光栄に思っている。

この大曲を聞かれる聴衆の方々ひとりひとりが、雄大で焼けつく真赤な“ゆうやけ”を心に抱かれ、この曲の虜となられるものと確信している。

—黒人靈歌集—

音楽を大きく二つに分けると、イン・テンポの音楽とテンポ・ルバート・エスプレッシーヴォの音楽となる。ジャズ・ロックは前者に相当し、いわゆるクラシック音楽は後者に相当する。当然今宵演奏される黒人靈歌は前者に相当する。イン・テンポの音楽は正確に演奏するにはとても困難で、運動神経がかなり重要な部分を占める。わが国のバイオリニストの大家の一人である辻久子でさえ、年一回クリスマス・コンサー

トでイン・テンポ音楽の研究のためにジャズ・ロックを取り上げているのである。

アフリカの子供たちは音楽を通して人生を、部族の歴史や文化を学んでいく。農耕をはじめ、狩猟、牧畜、漁撈といったすべての生産活動や戦いも歌とリズムに結びついている。共同体的な部族社会で歌われるこれらの歌の多くは、リーダーとグループによる呼応形式（call and response）をとつてあり、この形式が海を渡って黒人靈歌に受け継がれているのである。北米の黒人は単純な肉体労働から次第に技術労働に利用され、必要な教育や指導を受け、白人社会と密接な関係を保ちながら常に差別されてきた。そこに資本主義社会の恩恵を受けながらの抵抗、反抗があり、黒人靈歌は結局そうしたものを表現してきた。

Deep River「深い河」——音楽的に完成されており、大変有名な曲。「深い河」を越えて「約束の地」カナンへ行きたいが、「越えられぬ河」なのである。

Crucifixion「キリスト受難」——キリストのはりつけの絵を見られた方も多いだろう。刑場でさえ、キリストは何も言わずに死んでいったのであつた。

If I got my ticket, can I ride?「キップを手に入れたら、天国へ行けるのか。」——今まで天国へ行く機会がなかったのであるが、天国行きのキップを手に入れたら、すぐ天国へ行けるだろうか、と天国へ行くことを願望した曲。

Were You There?「お前もそこにいたのか。」——黒人靈歌を代表するこの曲は、その簡潔さと美しさにおいて他に類を見ないが、その内容はあまりにも深くすべての人に厳しく問い合わせているのである。

This ol' hammer!「古いハンマー」——鉄道建設につかわれた黒人奴隸の残した労働歌の一つで、歌の中に出てくるジョン=ヘンリーは、異常な力持ちであつたため高名であつた実在人物。

Jacob's Ladder「ヤコブの階段」——黒人靈歌にしては、いわゆるシンコペーションもなく三拍子の調子のよいきれいな曲。

Ain't-a that a good news「良き知らせじゃないか」——鋭いシンコペーションの連続が天国へ行ける喜び——すなわちキリストのところへ行ける喜び——に異常に活力を与えている。

以上7曲を身体の感覚として自然に表出できればよいと願っている。

クラブ紹介



我がグリークラブの実態は、はたしてどうなのであろうか。固い人物の集団であると考えている者もあれば、異常な人物の集団であると考えている者もある。ところで、我々の間ではやっている遊びがひとつある。それはクリームジャンケン（別名コーヒージャンケン・ジユースジャンケン）と呼ばれるものである。これは、じゃんけんで負けた者が参加者にアイスクリース（またはコーヒー・ジュース）をおごるというものである。負けた場合は悲惨である。この私自身も過去に5連敗した経験がある。思わぬ出費のために生活困難に陥ってしまったのである。最近では新たにコープランチジャンケンというものがやっている。これは品物が高価なだけに今のところ参加者は少ない。私自身、未だにこれには参加したことがない。くだらないことばかりしているが、何かとおもしろい事が多い。以上、実態のほんの一部を述べたに過ぎないが最後に、これからもよろしく。

僕のアラレちゃんは○○と言います。とてもいい名前だと思います。

アラレちゃん人形を抱いて眠る僕の夢はいつも○○ちゃんの夢です。

神様、今日も○○ちゃんの夢を見ることが出来ますように……

ああ、いやだいやだ。なんて人使いの荒いジョイント＝マネージャーなんだろう。面白いことなんて書けへんて。いや、まず落ち着こう、構想を練ろう。——なんで大川の裸がでてくるねん。藤井さんが地獄のカルテット（高橋、矢島、丸岡、大川）を率いて、大川を蒲団一炬燄蒸し。高橋が大川の手足を縛って衣服を剥ぎ剥ぎ。すっぽんぽんの大川に蒲団一枚被せて民間人のコンパ会場に運ぶGleemen。何の騒ぎやねん！

気を取り直して、面白いことを想い出そう。——なんで高橋の裸がでてくるねん。風呂の窓からすっぽんぽんて、自発的に出てゆく高橋。高橋をlock-outする地獄の軽Tête。

——俯き加減に高橋を中に入れてあげるみはらし屋のおばちゃん。（翌日、このおばちゃんは高橋と視線が合うと目をそむけるようになったとか）奴は一体何者なんだ？

裸から離れよう。面白いことなんか全然浮かばへん。僕もそろそろ引退かな？「引退」「阪神の小林」「うちの小林指揮者」「みみずく」「みみずくの練習してくれへん」と不敵に笑う中津さん。「途中で止めたらあがんで！」と笑いをこらえる西山さん。「十年の月日がたつた（統合）」を「人生楽ありや、苦もあるさ」と水戸黄門のテーマ曲を歌い出すベース・パリトン。「何故君知つてたのに僕に黙っていたの？」と小林さんにジユースをおごられるイノセント坂居。やはりこれは内輪受けかな。内輪受け「仲間内」「仲間にはいれ」「きたれ」「Komme herein」「西山さん」；ジョイントの当曰「西山さん、本番ミスらんといて下さい」と冗談で坂居。「俺はステージ慣れしてるさかいそんなABCチック

なことはせえへん」と笑う西山さん。しかし、「komme herein」としつかり他人のSOLOを歌つてしまい、顔が笑いで引き立てる指揮者と近くの者。「お前が変なこと言うからまちごてししませんか？」責任を坂居に擦り擦り。「坂居」「走るリズム」「早い」「手が早い」「スケベ」「島村」「滝外」「谷口さん」「うどん」「長い」「棒（ポール）」「前中」「不器用」「まがりなりにも」「坂居」あがん循環論法や。虎がバターになってしまふ。一向に進めへん、発想が………ところで今何時や？もう寝なあかん。また明日や、今日はやめ、やめや。

このように彼は毎晩、面白いこと欠怠に苦しめられるのである。なのに一般大衆は、この課程を無視して結果だけを見て「しょうもなあ」と言う。彼はこの風潮をひどく嫌っています。「くそつたれの大衆は嫌いだ、早く死ね！ あつ裸が……」彼の寝言でした。

あれはいつのことだったろう。まだ入学したてで右も左もわからない一年生の教室に突如、深紅のトレーナーの一団が、ドヤドヤと入って来たのは。一瞬、あつけにとられる私達の前で2~3曲歌い納めると、一抹の躊躇を買ひながらも、またドヤドヤと去つて行つた彼ら。だが、私の脳裏には、その時歌つた“いざ立て……”のメロディーと、一番左端で小さな体を震わせるように高い声を出していたM氏の姿が、焼きついて離れなかつた。それから一ヶ月後、気が付くと私はそのグリーメンの一員になつていた。入部する前は、これを機に少し合唱の勉強をしてみようと入つたのであるが、実際ふたを開けてみると、それどころではない。グリーメン一人一人の人間的魅力に取り付かれてしまつたのである。いちいちここに紹介できないのが残念であるが、ともかくも、当分、この外大グリーという底無し沼から脱け出すことは不可能であろう。この人間的魅力の源泉を探り当てるまでは。

一番胸が高なる一瞬は、緞帳が上がるその時。

第二ベルとともにステージが暗くなる。どうも人間つて大勢で暗い所にいると胸が高まるみたい——緊張。M.Cの声「たいへん長らく……」何度も耳にしだらう、このセリフ。“ん！？”今回のアナウンサーはなかなかだぞ”なんてバカなこと考える。そしてグイーンって音がして緞帳が上がる。黒い光がその下を走る。会場のざわめき。“もう何してんの、早く席についてよ”。緞帳が上がりきって、目もなれてくる。“お客様の入りは……”なんてそんなこと気にする余裕あるの？いつもそうだけど、緞帳が上がると変なところが気にかかる。“ネクタイは真つすぐになっているかな。カッターの襟は？チャツクはちゃんと……”。手がムズムズする、いつものクセ。と、だしぬけにブツーってピッチ・パイプの音。とりにくい音。“今回も2小節目から歌いだしました。



クラブ紹介



◆狂人日記 外大グリー編

某君、今はその名を伏せるが、彼は外大グリーに入部して2年目の純粋可憐な少年である。その彼が、外大グリー色に染まり悟りを開くまでの過程を如実に描いているのがこの作品である。言葉は錯雜としていて一貫性がなく、荒唐無稽の語も多い。一見して外大グリーの悪影響がわかる。しかしたまにはぼ脈絡の整つた部分もあり、その中から最近のものを抜粋して一編とし、医師の研究に供しよう。

後輩がにやりと笑って僕の横を通りすぎた。このごろの若いもんは先輩を屁とも思っていないから困る。

このごろ「外大グリーは変わったなあ」と思っているところに、先輩から「変えたのはおまえだ」と一言。何だろうあの目つき。

今日は『ゆうやけの歌』の練習だ。「はだかのくもはあんずいろ。だけ！」あつ、音をはずしてしまった。指揮者と目があう。指揮者ニヤリ、僕ドキッ！

練習中尻のあたりが快感。思わず身震い。後ろを見ると先輩が僕のかわいいヒップをさわっていた。先輩ニヤリ、僕ドキッ！「あなたのおしりをなでさせてー。」

最近みんなの目つきがあかしい。どうして僕を見てにやにや笑うのか。わけがわからず恐ろしい。何事も研究してみてはじめて明らかになる。そうだ、あいつだ。あいつがみんなに言いふらしたにちがいない。

あいつには悪い趣味があって根も葉もないうわさをすぐ広める。今度は僕をス○ペ呼ばわりしているらしい。この手のうわさはグリー内にはすぐ広まる。ああ、僕は純情で何も知らない少年なのに……。どうしてス○ペだなんて。けれども本当に純情だろうか、グリーに入部して以来そうだとも言いきれなくなつた。一年前はこんなことなかつたのに、道を歩いていても、授業中も、練習中も思い浮かぶのは……、いや違う／絶対ス○ペなんかじやない。これは陰謀だ。恐ろしい。底なし沼の外大グリー。もう僕はぬけだせない位深みにはまってしまった。僕の姿が沼の中に見えなくなるのも時間の問題だろう。

ああ だれか僕を た・す・け・て

自覚めると何も見えない。どうやら沼に同化してしまつたらしい。そうか、これが外大グリーの正体だつたんだ。けどもう遅い。くやしい もう少し早く気づいていたら……

今、僕は暗黒の中で結構楽しく暮らしています。次の獲物を待ち構えて。

◆ 算面の一角、この四畳半の下宿にも惜しみなく冬型の気圧配置は押し寄せてきた。西向きの窓から差し込む晩秋の夕陽は、起きたばかりの眼にまぶしい。部屋が少々散らかっている。物置きと化した勉強机には、飲み残したミルクがヨーグルト様に変わっている。部屋の隅にはカビにまみれたものがあるが……ああ、栗か。そういうれば合ハいで栗拾い行つたな。松の木の下に松毬に混じって、イガから取り出された栗たちが寝つころがつていた。もう栗拾いには行かんぞ。それにしてもこの部屋、どうにかならぬものか。女子大の方掃除に来て頂けません？

そういう秋は人恋しくなるものの様で、この間ひどい風邪をひいたときにも痛感した。外は秋晴れだというのに暗い四畳半で眠っている。空腹のあまり自覚めても、飯を作つたり喰いに行つたりする元気はなくて手元のチョコレートで我慢する。寝ているのか起きているのか、渾沌した空気の中話し相手もなく、ただただ時間は過ぎてゆく、昔の写真や手紙を出してみては溜息。やっぱり独りじゃ面白くないようで、はやく誰かと「コタツみかん」したい、なんぞと思っている。

◆ 春はあけぼの ぼつかぼか

「人前で歌なんかうたうものか」と思っていた私がいつのまにか練習室に通うようになった。

「先輩、これを食われて下さい」「ありがとうございます」

部員の間では、こんな妙な言葉が使われていた。ああ、なるほど、これがいわゆる「敬語」って奴か。そう思った私は、さつそくこの「敬語」を使いまくつたわせてくれた。

「あめめ——」「あめエ——、このやろ——」

路上で大声でさけぶ人もいた。私は、すぐそれにならった。一種の満足感が優しく私を包むこのように、私はどんどんバイキンに冒されていった。冒されることに快感さえ感じる。練習に出て、バイキンを吸収することを常とした。おかげで「敬語」を覚えることができたし、スケベにもなれた。バイキンは、私の身体全体を支配した。

しかし、よく考えてみると、私は人の真似ばかりしていたのである。果たして、今まで私は、自分を主張したことがあつたろうか？。スケベになったのも、自分が卒先してスケベになつたわけでもなく、ただ周囲がそうだからそれに染まつただけである。（えつ？？）全て、他人の行動や言葉で自分を納得させようとしてきた。のかな？

もうすぐ3年 そろそろ自分で新しいバイキンを作りたくなつた。

（でも いつまでも スケベでありたい）

◆ 数十年に一度の土星の影響とやらで、心身ともに低迷する今日この頃、考えごとにふけつてはおち込んでしまう。

この定演が終われば大学生活も残り一年、ボクシングの15ラウンドにたとえれば、12ラウンドあたりだろうか。12ラウンド、ゴングですくわれたといった感がする。

僕は人生に於て、己れに対する勝利者でありたいと思う。自分という駄馬をいかに御するか。いずれにせよ、己れが満足いく人生をおくりたいものだ。自分のペースで歩みたい。

それにしてもこのクラブの将来やいかに。とにかくパワーが欲しい。歌に於てもその他に於ても。

「言いたいこと言い、やりたいことやる」それがクラブ再建へのショート・カットだとおもう。



Farewell Message



♥ I will never forget you

Four years! but seems as if four months or less. I never mean, however, that there is nothing worth mentioning. It was very hard days. I always hoped that I could take a rest, but I could not. The slope never ended, and there was no time or place to do so. Sometimes I felt discouraged, but then, my best friends! you would help me a good deal. I can never thank you enough all of your kindness, all of your aid and all of your sincerity.

Farewell, everyone, you can forget me, but I will never forget you ...

Y. Taniguchi



大 音 厚 智

四年前、先輩諸氏の大きさに魅せられ、近くにいたいと感じていつの間にか入部していたグリークラブ。偉大な先輩、楽しい仲間達、黒人靈歌…。僕がグリーから得たものは計り知れない。確かに男声合唱というやつは最高だ。しかし自分が外大グリーメンであつたからこそ、今胸を張ってそう言える。外大グリーでなくてはならなかつた。外大グリーよ、輝かしい4年間を、有難う。

だが、お前は僕を入れたことを後悔してはいないか。僕はお前に何をして来たのか。何もできない、そう思うことで、できないではなくしていない自分を甘やかして来た。

「悔やむだけでは変わらない。振り返れ、歩き出せ。明日は少しましになれ。」そんな歌が胸に痛い。外大グリーよ、許してくれとは言わない。ただ、お前が僕に与えてくれた数々の感激を、どうかこれからも後輩達に与え続けてほしい。外大グリー、万歳！



♥ つばめが飛ぶ青い空は 未来の夢、キャンパスね

板 倉 正 幸

入学式直後、私の前に紺プレザー、赤ネクタイの集団が現われた。彼らは「グリークラブの者ですが」と接近しつつ、私の腕をしっかりとつかんだ……2週間後、自分も紺プレザーに赤ネクタイをしていた。

「一飲ませて下さい、もう少し、今夜は帰らない帰りたくないー」グリーに入ってすぐ酒の洗礼を受けた。以後、飲むたびに酔い、酔えば歌つた。ついで歌う先輩の迫力に圧倒され、あこがれた。

「——失う時、始めてまぶしかった時を知るの——」

本当に「アツ」と言う間の4年間だった。そして「ウン」と納得のできる4年間だった。この充実した時を与えてくれたグリーメンとグリークラブに感謝！



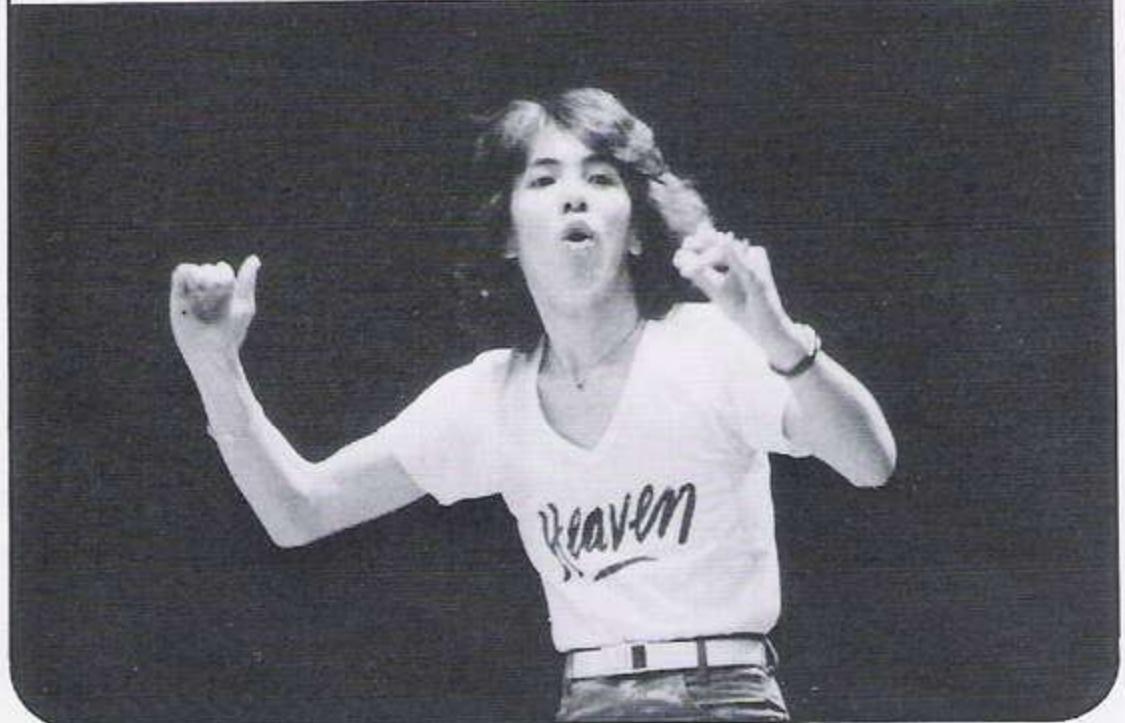
牧 本 成 俊

四年間を振り返ってみると、「楽しい」と感じた時があまりないことに気付く。発声や音取りにしろ、運営の仕事にしろ、たいてい「しんどい」の四文字がついてまわつた。ふと、クラブがなかつたらどんなに楽だろう、と考える事もあつた。けれどその度、わたしはやめて失う物の多さのために思い留まってきた。楽譜の山、本音の言い合える友人、少しばかりの音感、そしてそれら全部が融け合つて生まれる歌。どうしたって捨ててしまうことなどできなかつた。

わたしがクラブに残せる物は少ない。それでもクラブはわたしに多くのものを与えてくれた。そしてわたしは今日で終りだが、それは得た物をどれ一つとして失わずに済む終りである。別れではなくて出発だ。さあもうすぐ発車のベルが鳴る。四年間本当にありがとうございました。ありがとう。行つてきます、我がGLEE CLUB STATION！

また会う日まで…

中 津 孝 司



八 杉 勝 英

前指揮者の秋本氏との出会いから僕のグリー生活がはじまつた。でも考えてみると月日の立つののはやいものだ。初めての夏合宿の日々は、僕にとって、とても異様かつ貴重なものであつた。食事がはじまり、回りを見ると男ばかり、練習がはじまつても男ばかり、夜、蒲団の中にはいって寝返りをうつと男の顔。あの時、「これがグリークラブか。」つて痛感したつけ。

でもいつしか自分がそんな環境に染まっていくのを感じた。そしてついには男だけで歌うことの楽しさを自分なりに見つけ出した。男特有の汗臭さのしみついでせまい部屋で、三十名程の男が汗を流しながら歌うことの楽しさを最近、やつとのことで実感できるようになった。この実感を一生の思い出として僕の心に残ることにとても感謝している。長い間、どうもお世話になりました。

GLEE CLUB DIARY

▶ 4月1～5日：新入生勧誘

「キミ！ どこの語科？」

「英語科です」

「そうか、グリークラブには英語科の工工先輩いてるで」

「ボク3年なんですか……」

「…………」

▶ 4月11日：入学式（千里中央よみうり文化ホール）

この日も新人獲得の熱い戦いが展開する。おろしたてのスーツの袖をひっぱられて迷惑そうな新入生多数。

▶ 4月24日：4大学ソフトボール大会（服部緑地）

今年のソフトボール大会では、初めて一勝してしまった。全敗の伝統を作ってくれた諸先輩方に申し訳ない。

▶ 5月5日：大学部会運動会（大阪城公園）

参加することに意義がある。

▶ 5月14日：新歓コンバ

久々の盛り上り。各学年ごとに歌ってみて、その実力の差に驚く上級生。

▶ 6月21日：大阪4大学交歓演奏会（森ノ宮ピロティホール）

アンコール曲のドイツ語に最も悩まされたのは実は外大ブリーダーだった。嘘うとたらあかんでエー。

▶ 7月10日：大学フェスティバル（池田アゼリアホール）

▶ 8月26日～9月1日：夏合宿（ハチ北高原）

身内だけがわかる楽しい話題を数多く生み出した。フトン、コタツ、裸、夜逃げ等々。

▶ 9月3～4日：合同合宿（奈良コース）

ジョイントコンサートを目前にして奈良女音楽部の方々と。

▶ 9月10日：第2回ジョイントコンサート（森ノ宮ピロティホール）

お世話になった先生方、奈良女のみどりさん、どうもありがとうございました。

▶ 11月13日：箕面市民音楽祭（箕面市民会館）

PS osaka photo

(株)大阪フォト サービス カンパニー

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL 06(443)7608(代表)

“安い うまい 速い” 学生さん集合！

大衆酒蔵 養老の瀧 北千里店

名物：やき鳥、酒 280円 ビール(大) 370円
その他1品 200円より 御食事も出来ます。

営業時間 AM11:30～PM11:00

合唱団の夏合宿に……

ハチ北 みはらしや

兵庫県美方郡村岡町大釜
07969-6-0604・0739

MEMBERS

顧問 山口慶四郎(ロシア語学科教授)
ヴォイストレーナー 林 誠

部長 牧本成俊

涉外利守和典

指揮 中津孝司

副部長 勝本昇

渉内宮田悟夫

副指揮 小林卓郎

会計 宮田悟夫

ステージマネージャー 西山恭介

TENOR I

保川 一治(M 5)清水谷
大音 厚智(S 4)虎姫
中津 孝司(R 4)高津
八杉 勝英(I T 4)藤島
宮田 悟夫(C 3)藤島
島村 泰生(C 2)茨木
丸岡 仁(M 2)大手前

TENOR II

牧本 成俊(S 4)四条駿
小林 卓郎(R 3)明和
坂居 孝二(F 2)土庄
高橋 誠(C 1)北野
島野 岳志(C 1)茨木

BARITONE

板倉 正幸(I N 4)刈谷
勝本 昇(K 3)桃山
西山 恭介(S 3)同志社香里
松村 尚人(S 2)七尾
矢島 正志(I N 2)札幌旭丘
山本 晃(C 1)多治見北

BASS

谷口 善典(E 4)茨木
利守 和典(M 3)岡山大安寺
藤井 哲(I Pu 3)島本
前中 靖司(I N 2)白陵
大川 元博(T V 2)清風
高橋 信浩(T V 2)刈谷

C:中国語 E:英語 F:フランス語 I N:インドネシア語 I Pu:ウルドゥ語 I T:イタリア語 K:朝鮮語
M:モンゴル語 R:ロシア語 S:イスラニア語 T V:タイ・ベトナム語

編集後記

このパンフレットが、今日の演奏会に臨む外大グリーの「心」を少しでも伝えることができれば幸いです。
お世話になった関係の方々に心より御礼申し上げます。

レストラン

南大使館でごきげん!!
明日の活力を養って下さい
学生コンパ 大歓迎!!

◎募集◎

長期学生アルバイト
(食事・交通費付き)

ニュー ミュンヘン南大使館

- 本社 ☎ 312-0131
- ナンバ大使館 ☎ 633-8461
- 本店 ☎ 361-7122
- 神戸大使館 ☎ 391-3656
- 北大使館 ☎ 312-9151
- 見本市大使館 ☎ 573-4777
- 貴賓室 ☎ 364-7121
- かよてんか ☎ 211-7248
- 南大使館 ☎ 211-8827~8

ホテル
ニュー ミュンヘン
福井県坂井郡二俣町
(東尋坊)
☎ (0776) 82-3988

音楽好きのあなた、一度我々といっしょにコーラスしてみませんか!!

布施混声合唱団団員募集中♪

◆練習日 毎週木曜日 (PM6:30~9:00)
第一土曜日・第三日曜日

◆資格 18才以上の方ならどなたでも

◆練習場所 近鉄永和・東大阪市市民会館視聴覚教室
近鉄永和・東大阪市青少年婦人センター

◆団費 月1,500円(一般) 1,200円(学生)

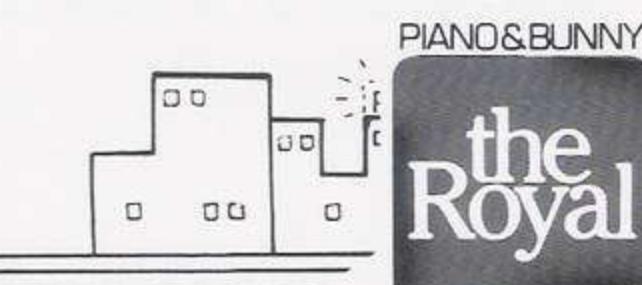
◆連絡先 上田 裕一 ☎(06)722-0117
岡本 弘明 ☎(075)931-5994まで

《経験の有無は問いません。一度見学において下さい》

青春なに色・気分なに色!?

楽しさ鮮やか 飲みにケーション大切に!!

粹なピアノのメロディとキュートなバニーガール。大人の雰囲気が漂う。グラスの持ち方や話題まで渋く決めてみたくなる。



南店 道頓堀北詰西入・花月第一ビルB1
宗右衛門町店 宗右衛門町・ヤマトヤビル3F
千日店 千日前東宝敷島前・パレ逢阪ビル3F
三宮店 三宮レインボープラザ6F
姫路駅前店 姫路駅前・大手前ビル5F
岡山店 中央郵便局隣・ショウキン第15ビル7F
ギャザ阪急店 新阪急ホテル北向い・ギャザ阪急2F
ニューOS店 阪急ファイブ入口・梅田楽天地ビルB2
梅田店 うめだ花月劇場筋向い・ウメダパラスピル3F
桜橋店 桜橋交差点北西角・新桜橋ビルB1
京橋店 京橋エイコービル2F

まるで、ふる里のお祭り気分。すっかりくつろいでしまう。初めて会う人もなんだか、みんな友達みたい。ここは、都会の心のふる里。



ギャザ阪急店 新阪急ホテル北向い・ギャザ阪急3F
千日店 千日前東宝敷島前・パレ逢阪ビル4F

コンセプトはフリーダム&カジュアル。ワインを飲むのに気取りはいらない。素敵なインテリアとカリフォルニアからやって来たブロンドギャルのライブが最高。



梅田店 うめだ花月劇場筋向い・ウメダパラスピル4F
宗右衛門町店 ホリディイン南海南側・淡路屋ビル3F
三宮店 三宮レインボープラザ5F
ANNEX (元)千日デパート西隣日土地ナンバビル5F

アルゴンレーザー光線、直径6mのライティングUFO。メカニカルな楽しみと驚きがいっぱい。ハイテクノロジーディスコ——ラジオシティ



ニューOS店 阪急ファイブ入口・梅田楽天地ビルB2

気軽に楽しめるのがこのお店の特徴。いわばお酒の入門書。スポーツも音楽も基本が大切。先輩達もこの店で修業したんだ。



新御堂店 新御堂筋ワールド筋向い・日進ビルB1
京橋店 京橋・田中萬ビル4F
難波店 千日前御堂筋角・北極星ビル7F
千日店 千日前東宝敷島前・パレ逢阪ビル2F
京宝店 河原町三条下る・京都宝塚劇場B1

ちょっとした小物まで細やかな神経がいき届いているのが嬉しい。気取りと遊び心を思う存分満足させてくれる。



ギャルズドウント 道頓堀・ドウント9F
姫路駅前店 姫路駅前・大手前ビル4F
岡山店 高島屋隣・第一セントラルビルB2

オンラインボトル・システム……世界で初めて!! コンピューターによる計量器を導入。オンラインカードを提示していただくと、全国のオンライン店で、キープしたボトルのお酒が楽しめるシステムです。大阪だけじゃなく、神戸、名古屋、東京と全国にあるから、キミ達のプレイネットワークがぐ~んと広がる。さあ、どの店でボトルキープするかな——!?



ANNUAL CONCERT XXVII

1. メンデルスゾーン男声合唱曲集
2. わがふるき日のうた
3. ゆうやけの歌 (OB合同)
4. 黒人靈歌集